

後記

昭和48年(1973)に帯広市役所から十勝の有識者が召集された。昭和58年(1983)が帯広の開基百年記念のため、この際、後世に残るものを建設したい、予算は16億円準備しているとのことであった。何度か会議があつて、種々検討された。十勝が全国的に有名なものといえ、やはり畑作農業、酪農、畜産である。広い耕地に恵まれて日本一の大規模経営を展開し、内容も充実している。とすれば、改めてこれを全国に表明し、注目されるものがあつてよいとされた。

我が国には、郷土博物館などは各地に数多く建設されているが、技術的に整理し、過去から現在、そして未来へと続く技術博物館はほとんど建設されていない。歴史の古い国ほど歴史を大切に、技術博物館を充実させている。それは、豊かな創造性を育成するために必要なものと考えているからである。

食糧が安定的に生産されて人は豊かな生活を営める。十勝はどのよう

に食糧の生産に携わってきたのか、過去から現在への技術系譜を整理してそこから将来、どのように生産を發展させるべきか思考する技術博物館があつてよいとされた。十勝の人はそこから改めて自分たちの存在価値を認識するであろうし、全国にその内容が認められれば多くの人が視察に訪れるであろう。全国との交流が多くなれば、お互いがさらに切磋琢磨する雰囲気も醸し出されようという結論づけられた。

農機具等調査収集委員会が結成され、さっそく活動に入った。十勝農業協同組合連合会が休日であれば、クレイン付き4トトラックを自由に使ってよいと協力を申し出たので、この好意で農機具や生活用具などの収集を開始した。農家の協力もあつて収集は順調であつた。ところが、途中から様相がおかしくなってきた。市は市民のための文化センターとしても使いたいと、割譲を申し出てきた。当初、2分の1ということであつた。だが、技術博物館として使えるスペースはいつの間にか8分の1になってしまつていた。これでは形をなさないと抗議すると、約束



村井 信仁

事であるので市はいずれ本物を建設する、ここは穏便にとなだめられてしまった。市は市民優先とするが、どこにでもあるような百年記念館で何が意義があるというのであろう。記念館の本質を理解していない。

夢破れたときにスガノ農機(株)の先代社長の故・菅野祥孝さんが、工場跡地が売れてまとまつた資金ができた、これを有効に使いたいと言つてきた。ヨーロッパには一緒に何度か訪れているので、技術博物館を作るのはどうかと提案すると、土を耕す技術博物館を建設することで一致した。

同社元専務の穂吉忠彦さんは名参謀である。彼の才覚と努力で見事な「土の館」が完成した。農業機械学会、土壤肥料学会などが全国大会を豊富に開催するほど内容が充実している。参観者は道内はもちろんのこと、都府県からも、時には海外か

らも訪ね、毎年盛況である。土の館は技術博物館としての価値を認められ、北海道遺産に登録された。また、日本機械工学会からも博物館として指定されている。帯広市は市民に媚びるばかりに、平凡な百年記念館としてしまい、存在価値を失つてしまつている。

帯広市には不十分ではあるが、とかち農機具歴史館がなんとか建設された。しかし、これは十勝農業機械化懇話会、十勝農業機械協議会の活動によるものである。まず、十勝農業機械化懇話会が50周年記念事業で、農業機械等調査収集委員が収集した機械類が放置されたままで、このままでは文化遺産としての価値を失つてしまつた。会員農家のなかで倉庫に収納スペースがあれば、そこに手分けして収納しようと呼びかけた。大切に保管しておけばいずれ日の目を見る。文化遺産を廃

棄物にしてしまつては十勝の恥だと保全運動を展開した。

そうこうしているうちにその努力が認められ、資金も集まり、とりあえず小規模とはいえ、博物館が建設されることになった。展示にあつては十勝農業機械協議会が協力し、現在のものを加えて内容を整えてくれた。さすが十勝である。当時、農機具等を提供してくれた農家にこれぞ少しは顔向けできることになり、小生にとっては大感謝であり、肩の荷がだいぶ下りた思いである。

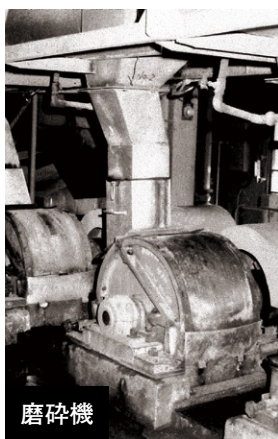
先に、百年記念館用に『十勝の農機具図譜』をまとめた。その後、それをベースに『北海道の農機具図譜』をまとめているが、十勝農業機械化懇話会のメンバーからこの際、もつとまとめた資料があつたらよいとされた。そこで、「馬鈴薯でん粉」や「亜麻工場」（次号から連載開始）は、北海道の畑作農業の発展に大きな貢献があるので、これを整理してみようと思ひ立った。

いろんな事情があつてまとめが遅れてしまつたが、ようやく形を整えた。本内容は収集物を保管しようとする努力された十勝農業機械化懇話会、とくに先頭に立つて活躍された西田純一さん、十勝農業機械協議会のメンバーに捧げ、厚く感謝の意を表すものである。（おわり）

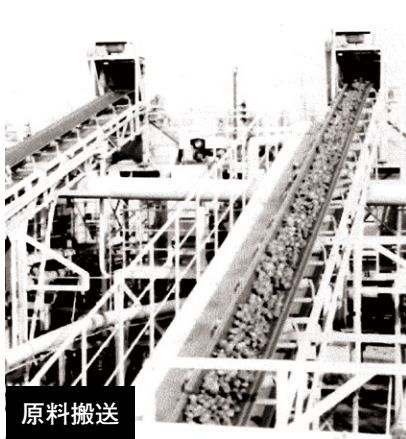
【参考文献】

- ・北海道農業発達史（上巻・下巻）、北海道立総合経済研究所
- ・馬鈴薯澱粉に関する調査、北海道庁内務部
- ・北海道農林水産統計、北海道統計情報事務所
- ・北海道統計百年の歩み、北海道統計協会
- ・北海道農林水産統計50年の歩み、北海道統計情報事務所
- ・北海道統計情報事務所
- ・ホクレン60年史、ホクレン
- ・北海道農業技術研究史、北海道農業試験場・北海道立農業試験場編
- ・伊達小史、伊達市
- ・土幌の歩み 町制施行20年史、土幌町
- ・農民工場30年の足跡、北海道フーズ創立30周年記念誌
- ・組合40年の歩み、土幌町農業協同組合
- ・ポテカル2013年10月号、カルビーポテト(株)
- ・現代農業昭和63年4月号、農文協
- ・道立十勝農業試験場 農業機械科試験成績
- ・道立中央農業試験場 農業機械部試験成績

昭和50年代（1975）の合理化でん粉工場



磨砕機



原料搬送



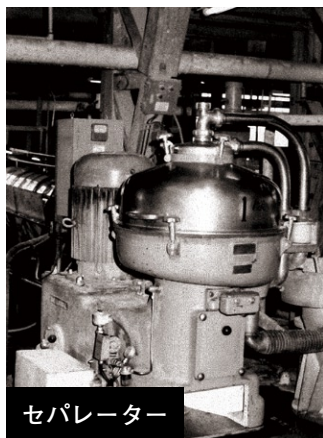
原料搬入



梱包、出荷



製粉機



セパレーター